

不等像の検査(ポラテストのコの字テスト)



目的

不同視の可能性のある症例に対して遠見の不等像視が許容範囲を超え、両眼融像(立体視)が損なわれないかの把握(特に眼鏡・CLの装用時や片眼無水晶体眼等の不等像視の検査)

準備物 偏光フィルタ・ポラテストのコの字テスト

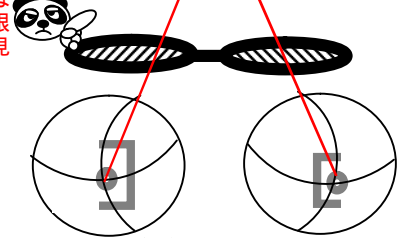
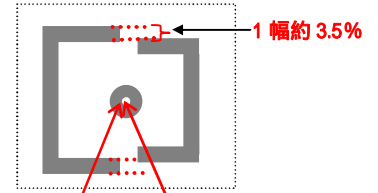
屈折矯正下、5mにて通常、右眼では右側のコの字が、左眼では左側の逆コの字が見えるように偏光フィルタを装用し、中心の円視標を見るように指示する

YES 左右の図形の大きさが同じに見えるか？ NO

偏光板の上下装用が反対だと見える図が反対側になるので必ず検査前に片眼ずつカバーしてどちらが見えているかを確認すること。

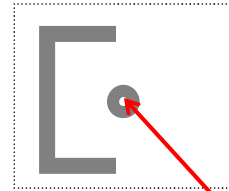
例) 右眼 約 7%

両眼での見え方

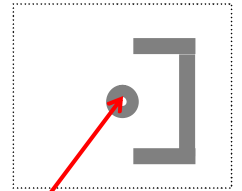


後方から見た図

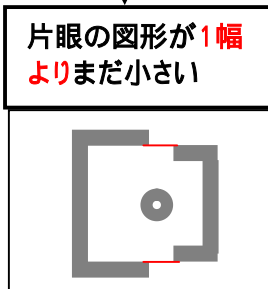
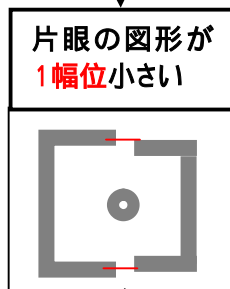
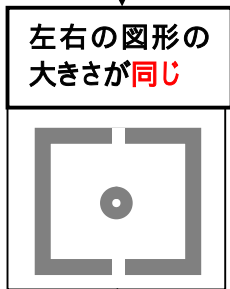
左眼による見え方



右眼による見え方



融像視標。ただし斜視は不可。



上下の合計での幅。

例) 2幅小さい!



眼科検査法ハンドブック第4版より

不等像の取り扱い規約によれば、何%拡大したら等しい大きさになるかを表示するのでマイナス表示はない。

不等像はない

右眼の像を約 3.5% 大きくすると左眼と等しくなる

右眼の像を約 7% 大きくすると左眼と等しくなる

記載例)

コの字テスト 0%

コの字テスト R: 約 3.5%

コの字テスト R: 約 7%

判定基準)

許容範囲: 通常 5~7%

不同視によって生じる不等像視は、軸性(主に先天性)不同視に対しては眼鏡が適し、屈折性に対してはコンタクトレンズが適する、と従来は言われていたが、所先生によれば最新の情報として補償効果により軸性の場合でも CL が良いとのこと。

判定例)

不等像を認めず

許容範囲である

両眼視が出来ない可能性あり



自分の結果を書いておこう!